

## はじめに

本号は、米国と欧州の損害保険市場に関する分析を掲載している。

本誌損保ジャパン総研クォーターリーは、古くから先進国市場である米国、欧州の損害保険市場の動向に関する報告を掲載してきた。また、当研究所は、1991年には「EC 保険市場統合」を刊行し、同年から米国保険情報協会が毎年刊行しているファクトブック「アメリカ損害保険事情」を翻訳刊行してきた。これらを基礎として、本誌に「米国損害保険市場の最新動向」あるいは「欧州損害保険市場の最新動向」と題して、欧米損害保険市場に関する事業成績等の概況、市場のトレンド分析を継続的に掲載している（米国は1998年実績から、欧州は2000年実績から）。

この「最新動向」と題する損害保険市場に関する分析のシリーズでは、継続性を重視している。単年ではなくトレンドを見ることができるよう、事業概況の数値分析は各年を繋げられるよう配慮している。さらに、実務の視点での現地調査を基本としている。チャネル問題の重要性を認識して損害保険事業の経験がある研究員が行った現地調査に基づいて報告を作成していることはその一例である。

米国、欧州（主として英独仏）の損害保険市場は、規模が大きく成熟市場であるとの共通性がある。共通性がある一方、それぞれ際だった特徴を有している。例えば、米国では保険事業は連邦一本でなく州別に規制され、多重的にセグメント可能な市場構造になっているので、多様なモデル・取組を観察できる。規模も世界最大であり、米国のハリケーンの深刻な損害は、再保険市場を通じて、他国の市場に再保険手配の困難さをもたらすという影響力がある。欧州ではEUの進展に伴い損害保険市場の統合が進められた過程で、厳格な規制があった独仏の市場が、英国のように自由化されていった。自由化の進展が損害保険市場にどのような変化をもたらしているかを観察するのに格好の事例となっている。

本号の市場分析では、米国・欧州とも資本市場の動向が保険市場へ影響していることが報告されている。株式市場活況の終了・運用環境の悪化が、米国では資本ベースを減少させ、欧州では大型のM&Aを終息させた。

米国において注目されるのは、市場環境が保険料の引き上げの状況に変化し通常ならば収益向上、資本ベース増加になるはずのところ、運用収益の減少・過去の負債の膨張（支払備金の積み増し）などのため、市場では資本不足が問題になっていることである。同様なことが再保険市場でも起きている。本号では再保険市場も含めてその動向・問題点を取り上げている。

欧州において注目されるのは、市場統合に伴い自由化が進化したあとにどのように変化しているかである。概してその変化は米国よりも緩慢であるが、それでもやはり変化はしていることがドイツ市場に現れている。他方、もともと自由度が高く、ブローカーチャネルが主流である英国市場は、ダイレクトチャネルの進展により市場が大きく変化した経緯があった。その英国市場がEUの規制等の変化によりさらに変化を続けていることも注目に値する。

なお、執筆した研究員の e-mail アドレスを掲載しているので、ご質問・ご意見をお寄せ頂ければ幸いです。

（常務取締役・研究主幹 小林 篤 akobayashi@sj-ri.co.jp）